

田中 利雄<sup>1</sup>：オオシャコガイの沈子

Toshio TANAKA<sup>1</sup>: A net plummet made of *Tridacna gigas* (Linnaeus, 1758)

漁網を張る際には、浮子（あば）と錘である沈子を使い、沈子は管状鉛製品、石及び貝殻を使う。貝殻の場合は貝錘というが、今回は、オオシャコガイ製の貝錘について報告する。

オオシャコガイは、シャコガイ類の最大種で、殻長75cm、殻高44cm、ときには殻長1.4mにもなる（奥谷2000）。分布域は沖縄県宮古島以南、台湾、西太平洋で（肥後・後藤 1993）、サンゴ礁の潮間帯から水深30mぐらいの所に生息し、殻は深く巨大なため産地では水盤などの調度に利用されている（奥谷 1985）。

オオシャコガイ製の貝錘は図1、2に示す物で、長さ23cm、幅15cm、厚さ6cm、重さ2.7kgであった。これは、この3倍位の大きさの貝を、左右上下を打ち欠いて、貝錘に作ったものと考えられる。内面上部の咬歯の辺りをわずかに欠いて、ロープを掛けやすくしてある。

内面の一部にウズマキゴカイの棲管が付着しており、海水中に長時間、貝錘として使用されていたと思われる。

これは名古屋大学の織田銃一教授が、1977年8月に長崎県五島列島の福江島富江町の海岸で、18種類の腹足類や7種類の斧足類などと一緒に拾ったものである。

オオシャコガイは、五島列島から産するという記録や、化石として見つかったという記録はない。したがって、当地の漁民が、宮古島以南へ出漁したおりに漁獲したのか、化石を採ってきたものと思われる。

A net plummet made of *Tridacna gigas* was found on the seashore at the Goto Island, Nagasaki Prefecture, by Dr. Sen-ichi Oda in 1977.

引用文献

- 肥後俊一・後藤芳央. 1993. 日本及び周辺地域産軟体動物総目録. 909pp. エル出版局, 八尾市.  
 奥谷喬司. 1985. オオシャコガイ. 相賀徹夫 (編). 日本大百科全書 3. 926pp. 小学館, 東京.  
 奥谷喬司 (編). 2000. 日本近海産貝類図鑑. 958~959pp. 東海大学出版会, 東京.

<sup>1</sup> 〒472-0013 愛知県知立市谷田町西長根25 <sup>1</sup>Nisinagane 25, Yata-chou, Chiryu City, Aichi 472-0013, Japan



図1. 沈子に加工されたオオシャコガイの外側.

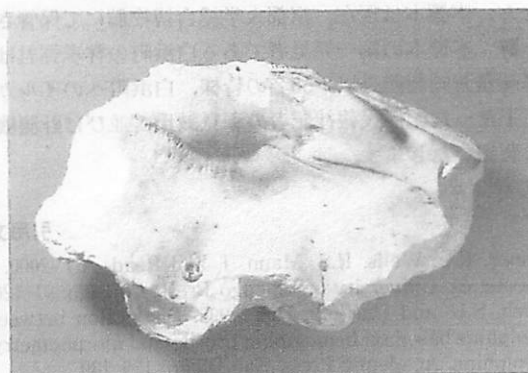


図2. 同じ物の内側.